

鶴橋中学校PTAからのご質問・ご意見に対する回答

1. 家から学校が遠くなるので通学が大変。自転車通学を許可して欲しいです。

(回答)

通学につきましては、本市では安全面の配慮から徒歩通学を基本としており、自転車通学は認めておりません。なお、通学距離につきましては、本市では、徒歩で小学校は2.0km、中学校は3.0kmを上限の目安としております。

2. 片方の中学にしかないクラブ活動は継続できるのか？

(回答)

再編後の学校は各学年3学級規模になると想定していますので、新たな学校の規模に見合った部活動数を検討する必要があります。今後、学校で現在活動している生徒のことに配慮しながら部活動の継続について検討していきます。

3. 跡地問題は？災害時の避難所はどうする？建物管理・非常食管理は？

(回答)

両中学校の再編については勝山中学校の校地を活用することを提案していますが、鶴橋中学校については進学元小学校である北鶴橋・鶴橋小学校の校区外に位置し、地域コミュニティの活動圏域と重なりが薄いことから、跡地については、大阪市の未利用地活用方針に則り、売却処分を基本とした有効活用を行います。しかしながら、新たな中学校の運動場が狭隘になり、体育科活動や部活動などの活動場所に制約が生じてしまうことから、勝山中学校区・鶴橋中学校区の小学校が再編されるまでの期間は、暫定的に鶴橋中学校の運動場を第2運動場として活用します。なお、再編に伴う小学校の跡地については、災害時避難所として残す必要があることから、日常管理を含めた活用方法について、地域住民の皆さんの意見を尊重しながら検討していくこととしています。また、鶴橋中学校の校舎等建物については、暫定活用等の期間においても、行政の責任において管理します。非常食等の災害時備蓄物資について、鶴橋中学校の暫定活用等の期間はこれまでと同様の保管を検討していますが、以降については他所への移転により、区内必要備蓄数を確保していくこととしています。

4. 鶴中と勝中とで学習面での差はあるのか？あればどのように埋めるのか？

(回答)

学校によって、年間指導計画や授業の進度等に違いは生じます。このため、再編後に混乱を招くことのないよう、再編前年度には両校の各教科担当教員間で、年間指導計画や授業進度等の調整の他、評価に関する規準の検討などの打合せを定期的に行うようにし、学習面での両校の違いをできるだけ少なくしていきます。

5. 生徒間の人間関係・進路等、先生の負担が増えるなか、それを補えるだけの人材確保があるのか？

(回答)

教員数については、学級数を基準として配置をしています。また、1クラスあたりの生徒数については、大阪市全体のルールがあるので、1クラスあたり40名という基準を変更することはできません(※)。ただし、再編によって学級数が増えますので、現在の鶴橋中学校よりも、常駐できる教員数は増えます。

また、学校再編を実施した学校に関しては、国からの教員の加配があります。大阪市としても、再編による生徒の不安の緩和等に資するため、配置する教員数について検討してまいります。

(※公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律により、1学級の児童・生徒数は40人を標準とすることが定められており、教職員についても、学校規模により定数が定められています。なお、大阪市では、1クラスあたりの子どもの数は、小学校1、2年生で1学級あたり35人、3年生以上で40人となっています。)

6. 部活動はどれくらい増えるのか？また本当に増えるのか？

(回答)

再編後の学校は各学年3学級規模になると想定していますので、新たな学校の規模に見合った部活動数を検討する必要があります。新たな部活の設置の際には、指導者の確保が必要であるため、部活動を必ず新規設置できるというものではありませんが、生徒の状況を見ながら、検討していくことは可能と考えています。

7. 民族学級はどうなるのか？

(回答)

もとの学校の伝統・文化や各学校の特色ある教育活動の取組は、再編後の新しい学校にも引き継がれることとなります。基本的には民族教育(多文化共生教育)の取組もその一つであると考えておりますが、新たな学校に引き継ぐ取組については各学校間で協議、検討を行い、学校設置協議会へ報告するなどして決定していくものと考えています。なお、増加する帰国・来日等の子どもをはじめ、本市の子どもたちが国際社会において生き抜くための力の育成をめざし、大阪市では平成29年度から民族学級、民族クラブ、国際理解クラブのそれぞれの取組を統合し、国際クラブと総称しています。

8. 給食は温かく美味しいものを求めます

(回答)

学校再編後も、現在両中学校で実施している、学校調理方式(給食調理設備を有する学校で調理した給食を他の学校に搬送する方式)での給食を継続します。

9. 通学ルート、先生が変わるのが不安です

(回答)

現在、中学校では通学路の設定は行っておりません。今後、通学ルートについては、学校設置協議会等でもご意見をいただきながら、設定するかどうかも含めて検討してまいります。

また、教員についてですが、中学校は教科担任制であるため、たとえば1校に1名のみ配置される教科の教員の場合、どちらかの学校の教員は必ず異動になるなど、両校のすべての教員を新しい学校に配置することはできません。しかし、学校再編によって生徒数、学級数が増える分、教員数も現在の鶴橋中学校、勝山中学校よりも増えますし、教員配置についても、両校の教員をバランス良く配置する等、生徒への影響に配慮してまいります。

10. 必ずしも生徒の定数にこだわらず丁寧に見る事のできる人数への柔軟な対応や、先生の数も通常よりも増やして欲しいです

(回答)

教員数については、学級数を基準として配置をしています。また、1クラスあたりの生徒数については、大阪市全体のルールがあるので、1クラスあたり40名という基準を変更することはできません(※)。ただし、再編によって学級数が増えますので、現在の鶴橋中学校よりも、常駐できる教員数は増えます。

また、学校再編を実施した学校に関しては、国からの教員の加配があります。大阪市としても、再編による生徒の不安の緩和等に資するため、配置する教員数について検討してまいります。

(※公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律により、1学級の児童・生徒数は40人を標準とすることが定められており、教職員についても、学校規模により定数が定められています。なお、大阪市では、1クラスあたりの子どもの数は、小学校1、2年生で1学級あたり35人、3年生以上で40人となっています。)

11. 鶴中の教員が必ず勝中に行き進路を一緒に考えて欲しい

(回答)

中学校は教科担任制であるため、たとえば1校に1名のみ配置される教科の教員の場合、どちらかの学校の教員は必ず異動になるなど、両校のすべての教員を新しい学校に配置することはできません。しかし、学校再編によって生徒数、学級数が増える分、教員数も現在の鶴橋中学校、勝山中学校よりも増えますし、教員配置についても、両校の教員をバランス良く配置する等、生徒への影響に配慮してまいります。

12. 子供ばかりが犠牲になる事を考えず、今の時代にあった教育内容の見直しも必要。少子化はこれからも進みます。学校を減らすよりも抜本的な考えを模索してほしい

いです

(回答)

まず、学校再編はこどもたちを犠牲にする取組ではありません。学校規模が小さいこと
によって、こどもたちの活動や体験に課題が生じている現状を改善し、中学校3年間で生
徒達に様々な経験、体験を提供できるよう、教育環境の改善を図る取組です。

また、今の時代にあった教育内容の見直し、ということについては、平成29年7月、
大阪市総合教育会議にて、生野区がめざす教育内容として「生野の教育」を提案し、公表
しました。「生野の教育」では、時代の変化に対応できる「未来を生き抜く力」の育成を
めざし、「自立（自律）学習」「キャリア教育」「チーム学校」をキーワードとした「次世
代の学校づくり」を進めることとしています。新たな中学校の教育内容については、各学
校と教育委員会事務局を中心に協議を進め、経過等を勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置
協議会に報告し情報提供を図ります。

少子高齢化は全国的な傾向です。しかし、生野区では、子育て支援の充実、教育環境の
充実等を通して、「生野で子育てしたい」世代を呼び込み、「持続可能なまち」をめざしま
す。生野区西部地域学校再編整備計画も、「教育環境の充実」にとどまらず、安心して子
育てができるまちづくり、災害に強いまちづくりをめざして策定したものであり、将来の
まちを見据えた取組です。

まちづくりなどの地域活性化の取組については、子育て支援の充実、教育環境の充実の
ほか、空き家対策などの住宅施策も、並行して重点的に進めていきます。

13. 人見知りが多い生徒もいるので統合するまでに時間をたっぷりって交流をは かってほしいです

(回答)

学校間で検討しながら、行事の合同実施等、できる限り交流する機会を確保していきま
す。

14. もともとある学校同士が統合する事で予想される「うちの学校ではこうだったの に」というもめ事が懸念

(回答)

子どもたちにとってのより良い教育環境づくりのため、保護者、関係地域のみなさんで、
新たな中学校の詳細事項を検討、決定する場である、勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置
協議会が設置されました。この場での意見交換が、ご指摘の懸念の解消に資するものと考
えています。また、学校間においては、再編前に、学校の規則や行事のすり合わせなど、
新しい学校の教育内容についての協議を行い、学校再編によって生じうる課題についても
丁寧に検討するほか、再編前からの交流や学習面での調整等、できるかぎり配慮しながら
取組を進めます。

15. メリット・デメリットを明確にして、勝山中学校との意見交換をしてほしいです

(回答)

学校全体の生徒数が少ないことには、たとえば教科指導を実施する教員が、個々の生徒の状況を把握しやすいなどの利点があり、学校再編によって、1名の教員が指導する生徒の数が増える面はあります。しかし、同時に学校に配置される教員の数自体も増えますから、学校再編を生徒にとって多くの教員に出会う機会にすることもできます。一方、鶴橋中学校の抱える小規模校の課題については、たとえば、体育の授業で男子サッカーの試合ができない学年があったり、自己負担金が大阪市の基準額を超過してしまったために、一泊移住を実施できず、日帰りの体験行事に変更せざるを得なくなる学年が出るなど、生徒の集団学習、集団体験に制約が生じていることなどがあります。中学校3年間で生徒達に様々な経験、体験を提供できるよう、教育環境を改善していくことが必要です。これらについては、平成29年11月28日および12月4日に開催した「勝山中学校・鶴橋中学校 学校整備計画(案)」説明会にて、両校の保護者・地域住民の方々に対し、ご説明させていただきました。

今後は、「勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会」にて、新たな学校の教育内容について情報提供を行うなど、両校の意見交換に資するよう、努めてまいります。

16. 統合後生徒が増え、先生が学習面・友人関係・トラブル等フォローできるか不安です。

(回答)

学校再編によって生徒数、学級数が増える分、教員数も現在の鶴橋中学校、勝山中学校よりも増えます。教員配置について、両校の教員をバランス良く配置する等、生徒への影響に配慮しながら、学習面や友人関係のトラブル等については、これまで通り、丁寧に対応していきます。

17. 不安(学習面・受験・急な環境の変化によるストレス・喧嘩が増えそう・いじめが怖い・友達と仲良くできるか・保護者間も仲良くできるか等)

(回答)

学校間においては、再編前に、学校の規則や行事のすり合わせなど、新しい学校の教育内容についての協議を行い、学校再編によって生じうる課題についても丁寧に検討するほか、再編前からの交流や学習面での調整等、できるかぎり配慮しながら取組を進めます。

また、子どもたちにとってのより良い教育環境づくりのため、保護者、関係地域のみなさんと、新たな中学校の詳細事項を検討、決定する場として設置された勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会における意見交換が、ご指摘の保護者同士の交流に対する不安の解消に資するものと考えています。なお、PTA間の交流については、勝山中学校・鶴橋

中学校 学校設置協議会に限らず、保護者や地域住民の方々のご協力もお願いしたいと考えておりますが、生野区においても、必要な支援を検討してまいります。

18. 少人数制の良いところが必ずなくなるのではないか？

(回答)

学校全体の生徒数が少ないことには、たとえば教科指導を実施する教員が、個々の生徒の状況を把握しやすいなどの利点があり、学校再編によって、1名の教員が指導する生徒の数が増える面はあります。しかし、同時に学校に配置される教員の数自体も増えますから、学校再編を生徒にとって多くの教員に出会う機会にすることもできます。また、再編により1学年の人数が多くなることで、少人数による習熟度別指導と多人数による集団授業を組み合わせる実施できるようになるなど、少人数による指導の良い所を引き継ぎながら、新たな効果を生み出していけると考えております。

19. 正直、この程度の再編で充実した部活動・学校生活等ができるとは思えません。子供を増やす事に力をいれるべき

(回答)

勝山中学校と鶴橋中学校を再編すれば、学校規模が小さいことによって生じる、「集団学習の実施に制約が生じる」「集団活動・行事の教育効果が下がる」等の課題を解消することができます。また、部活動や学校行事などの日常の学校生活の中で、他者とよい意味で競いあう経験を得やすくすることもできます。この経験は、自己を客観視し、より高みをめざす力を育成する指導、より充実した教育環境の提供につながるものと考えます。

また、子どもを増やすことについてですが、少子高齢化は全国的な傾向です。しかし、生野区では、子育て支援の充実、教育環境の充実等を通して、「生野で子育てしたい」世代を呼び込み、「持続可能なまち」をめざします。生野区西部地域学校再編整備計画も、「教育環境の充実」にとどまらず、安心して子育てができるまちづくり、災害に強いまちづくりをめざして策定したものであり、将来のまちを見据えた取組です。

まちづくりなどの地域活性化の取組については、子育て支援の充実、教育環境の充実のほか、空き家対策などの住宅施策も、並行して重点的に進めていきます。

20. 早急に「街づくり」からやるべきだと思う。意見を聞いてもらえない、また発言権を与えてもらえない子供たちは犠牲になっている。よりよい学校・教育環境とは、子供たちが一番感じることである。子供たち当事者が置き去りで、大人の手勝手な都合で統合というのは間違いである。少人数の学校を寄せ集めてもきりがない。

(回答)

少子高齢化が全国的な傾向の中、生野区では、子育て支援の充実、教育環境の充実等を

通して、「生野で子育てしたい」世代を呼び込み、「持続可能なまち」をめざします。まちの活性化には多角的、かつ長期的な対策が必要となり、子ども達にとってより良い教育環境をつくる「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進することも、このまちの活性化のために必要な取組になります。

鶴橋中学校は平成 31 年度に全学年単学級となる見込みです。学校規模が小さいことによって、こどもたちの活動や体験に課題が生じている現状を改善し、中学校 3 年間で生徒達に様々な経験、体験を提供できるよう、教育環境の改善を図ることは、早期に解決すべき喫緊の課題です。

より良い教育環境ということについては、平成 29 年 7 月、大阪市総合教育会議にて、生野区がめざす教育内容として「生野の教育」を提案し、公表しました。「生野の教育」では、時代の変化に対応できる「未来を生き抜く力」の育成をめざし、「自立（自律）学習」「キャリア教育」「チーム学校」をキーワードとした「次世代の学校づくり」を進めることとしています。新たな中学校の教育内容については、各学校と教育委員会事務局を中心に協議を進め、経過等を勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会に報告し情報提供を図ります。

まちづくりなどの地域活性化の取組については、子育て支援の充実、教育環境の充実のほか、空き家対策などの住宅施策も、並行して重点的に進めていきます。

21. 「より良い教育環境」とは具体的に子ども達にどのような環境を与えるものなのか？その内容を明確に保護者全体に出してほしい。統合を行ったうえで生まれる経費は、どのように活かされるのか？

(回答)

より良い教育環境ということについては、平成 29 年 7 月、大阪市総合教育会議にて、生野区がめざす教育内容として「生野の教育」を提案し、公表しました。「生野の教育」では、時代の変化に対応できる「未来を生き抜く力」の育成をめざし、「自立（自律）学習」「キャリア教育」「チーム学校」をキーワードとした「次世代の学校づくり」を進めることとしています。

財源についても、総合教育会議(平成 29 年 7 月)において、市長より、生野区西部地域の学校再編により生じる予算の削減効果については、区長の判断で、生野区西部地域の教育を良くするために使う計画を立てるように、と指示されています。

新たな中学校の教育内容については、各学校と教育委員会事務局を中心に協議を進め、経過等を勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会に報告し情報提供を図ります。